

平成 28 年 11 月 8 日  
愛 媛 大 学

## インドネシア共和国ゴロンタロ州御一行来県 人材育成に関する 3 者間協定締結式を実施

このたび、愛媛大学では、インドネシア共和国ゴロンタロ州知事をはじめとした御一行約 30 人をお迎えし、ゴロンタロ州・ゴロンタロ大学・愛媛大学における人材育成に関する 3 者間協定締結式を執り行います。ゴロンタロ州と愛媛大学は、これまで、ゴロンタロ大学および北ゴロンタロ州との間に、それぞれ 2 者間の協定を締結し、留学生の受入および派遣など、積極的な交流の取組みを行ってきました。

州および大学との 3 者間協定の締結は、平成 22 年 8 月のインドネシア共和国南スラウェシ州およびハサヌディン大学との協定に次いで、本学では 2 例目となります。本協定の締結により、インドネシアの州政府関係者らが学位取得のために愛媛大学に留学する機会が増え、産官学が一緒になって更なる交流ができるものと期待されます。

つきましては、是非、取材くださいますようお願いいたします。

### 記

日 時:平成 28 年 11 月 17 日(木) 10 時 30 分～11 時 00 分

場 所:愛媛大学本部 5 階第 1 会議室

(愛媛県松山市道後樋又 10 号 13 番)

列席者:約 50 人

**※内容に変更が生じる事がありますので、予めご了承ください。**

**※ 送付資料 4 枚 (本紙を含む)**

本件に関する問い合わせ先  
愛媛大学国際連携推進機構  
担当者名:和気家・岩田  
TEL:089-927-9155  
Mail:kokuki@stu.ehime-u.ac.jp

# 愛媛大学とゴロンタロ州・ゴロンタロ大学との3者間

## 交流協定締結式開催要領

1. 日時 2016年11月17日(木) 10時30分～
2. 場所 愛媛大学本部第1会議室(5階)
3. 出席者

※敬称略

【ゴロンタロ州】	州知事	ル ス リ ハ ビ ビ RUSLI HABIBIE
【ゴロンタロ大学】	学 長	シ ャ ム ス カ マ ル バ ド ウ SYAMSU QAMAR BADU
【愛媛大学】	学 長	お お は し ゆ う い ち 大 橋 裕 一

陪席者

【ゴロンタロ州】	州議会議長	パ リ ス ユ ス フ PARIS YUSUF
【ゴロンタロ市】	市 長	マ ル テ ン タ ハ MARTEN TAHA
【ボネボランゴ県】	県知事	ハ ミ ム ポ ウ HAMIM POU
【ゴロンタロ県】	県副知事	フ ァ ド ム リ ハ サ ン FADLI HASAN
【北ゴロンタロ県】	県知事	イ ン ド ラ ヤ シ ン INDRA YASIN
【ボアレモ県】	県知事	ル ム パ ガ ウ RUM PAGAU
【愛媛大学】	副学長・国際連携推進機構長	や す か わ ま さ き 安 川 正 貴
	アジア・アフリカ交流センター長	き か き ば ら ま さ ゆ き 榊 原 正 幸

#### 4. 式次第

進行：山内国際連携課長

- (1) 開式の辞
- (2) 出席者及び陪席者紹介
- (3) 協定書に署名
- (4) 握手・記念撮影
- (5) 大橋学長挨拶
- (6) Syamsu 学長挨拶
- (7) Rusli 州知事挨拶
- (8) 閉式の辞

～参考～

歓迎夕食会

場 所 愛媛大学城北キャンパス大学会館2階

日 時 11月17日(木) 18時00分～20時00分

参加者 ゴロンタロ州(28名) ゴロンタロ大学(8名)  
愛媛大学(8名)

安川副学長, 仁科理事, 大上学長特別補佐, 榊原センター長,  
小林副センター長, 島上副室長, 前川部長, 山内課長

インドネシア共和国ゴロンタロ州、インドネシア共和国国立ゴロンタロ大学及び  
日本国立大学法人愛媛大学の三者連携による共同研究及び人材育成に関する  
覚書締結のための概要等

## 1 インドネシア共和国ゴロンタロ州及び国立ゴロンタロ大学の概要

### (1) ゴロンタロ州

州名：Provinsi Gorontalo

所在地・TEL：Provincial Government of Gorontalo

Jl. Sapta Marga village Botu, Gorontalo city

+62-8124310163

インドネシア・スラウェシ島の北部。ゴロンタロ州は、スラウェシ島の北方のミナハサ半島の中央部に位置し、中部スラウェシ州と北スラウェシ州と接している。

ホームページ：<http://gorontaloprov.go.id/>

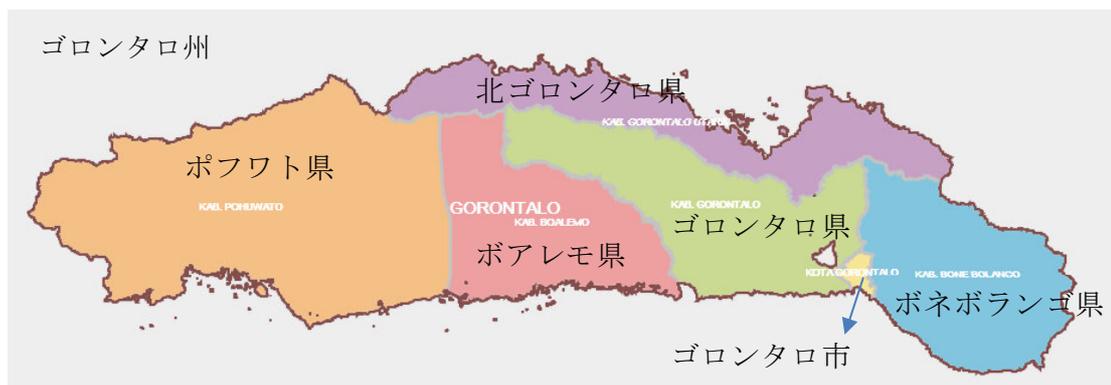
州知事：Drs. Rusli Habibie, M.AP.

行政区分：5県（Pohuwato：ポフワト県 Boalemo：ボアレモ県、Gorontalo Utara：北ゴロンタロ県 Gorontalo：ゴロンタロ県、Bone Bolango：ボネボランゴ県）、と1市（Gorontalo：ゴロンタロ市）から成り立ち、各県・市はいくつかの行政地区に分かれており、2011年にはゴロンタロ州は、70地区、723村で構成されている。

人口：男性、約534,000人、女性529,000人、合計1,063,000人

沿革・特色等：2000年12月に北スラウェシ州から分離独立。面積12,215 km<sup>2</sup>、人口1,063,000

人の小規模な州であるが、北はセレベス海、南はトミニ湾に面し、美しい海岸線を持ち、内陸は原生林をともなった山岳地帯を有する。森林資源、海洋資源の極めて豊かな研究ポテンシャル



の高い地域となっている。また、州内にあるドゥモガ・ボネ国立公園は動植物の固有種が多く、世界的にも知られている。

また、州内のゴロンタロ県にはジャラルディン空港があり、これらへは南スラウェシ州のマカッサル市から一時間弱のフライトで到達する。州都のゴロンタロ市は人口約20万人の質素かつ快適な小都市で、インドネシアでも最も安全性の高い都市の一つである。

## (2) 国立ゴロンタロ大学

大学名： Gorontalo State University

所在地・TEL： 06 Jl. Jendral Sudirman, Gorontalo City - Indonesia  
+62-435-821125 or 825754

ホームページ： <http://www.ung.ac.id/>

学長名： Dr. H. Syamsu Qamar Badu

学部： 教育学部、社会学部、理学部、文学部、工学部、農学部、水産学部、公衆衛生・スポーツ健康学部、経済ビジネス学部、大学院研究科（環境科学・教育学関連等）

学生数（2013年）：学部学生 14,078人、大学院学生 251人

教員数（2013年）：534人

沿革・特色等：ゴロンタロ大学（Gorontalo State University）は、2001年のゴロンタロ州の独立分離にともなって2004年6月28日に設立された極めて新しい大学である。ゴロンタロ大学の前身は教員養成の教育高等専門学校（Junior College FKIP UNSULTTENG in 1963）にあり、その後、北スラウェシのメナド教育大学（IKIP Manado）のゴロンタロ分校（Gorontalo Branch）等として展開し、2004年の6月に総合大学として設立された。なお、ゴロンタロ大学は、インドネシア語では Universitas Negeri Gorontalo（Gorontalo State University）と表記するが、インドネシア共和国政府教育文化省が統括する国立大学であり、州立大学ではない。ゴロンタロ大学は設立間も無い新しい大学であり、教員の学歴は、2004年の時点で学士165名、修士172名、博士16名で、博士号を持つ教員を養成・増員することが大学の大きな方針となっている。また、国際交流実績も少ない。以上のような背景から教育・研究内容を充実させるために愛媛大学に協力を要請している。

交流協定締結年月日： 第1回：2007年（平成19年）3月16日

第2回：2012年（平成24年）3月16日

主幹部局変更：2016年（平成28年）8月23日

理学部から社会共創学部へ移管

### 1. 愛媛大学とゴロンタロ州およびゴロンタロ大学との交流の経緯

愛媛大学は、設立間もないゴロンタロ大学の支援をインドネシア戦略の一つの方針として掲げ、実施してきた。2009年5月にゴロンタロ大学地質学科設立支援委員会を設置した。インドネシアバンドン工科大学と連携して、ゴロンタロ大学理学部に地質学科を立ち上げ、研究支援員等の派遣、中古の偏光顕微鏡20台及び書籍等の寄贈など、様々な支援を行っている。ゴロンタロ大学は、この地質学科新設のための実験棟を設置し、教育環境の充実を図っている。2011年から2013年には国際連携推進機構から国際連携支援員を派遣した。

ゴロンタロ州へは、2013年8月18日、ゴロンタロ大学学長らと社会共創学部教授（当時、理工学研究科教授）榊原正幸、国際連携支援員（愛媛大学）、県内経済団体関係者がゴロンタロ州知事表敬訪問を行った。この際、愛媛県および愛媛大学との今後の交流および連携について、包括的な協議を行った。

ゴロンタロ州は、教育、公衆衛生、インフラストラクチャー、経済の面で大きな課題がある。特に、人口の約17%が貧困層にあたる。ゴロンタロ州では、2016年に様々な分野の開発

を加速させ、インフラ整備、福祉・教育の充実、産業の発展と環境問題への対応、女性の活躍、貧困削減を目標としている。

また、すでに2013年5月8日に愛媛大学において、ゴロンタロ州内の北ゴロンタロ県、国立大学法人愛媛大学及びインドネシア共和国国立ゴロンタロ大学の三者連携による共同研究及び人材育成のための覚書が調印されている。これは、北ゴロンタロ県における水銀汚染地域の住民の健康調査、沿岸地域の経済活性化、沿岸生態系の保全、および人材育成のための教育に関する継続的な支援要請によって締結された。2014年3月16-20日には、北ゴロンタロ県職員5名が来県し、北ゴロンタロ県における水産業振興のため、伊予市内の水産物加工業関係企業の施設および作業内容を見学し、見聞を広めた。また、南予水産センターおよび、南予の真珠養殖業者を訪問し、現場を見学した。

そして、社会共創学部・榊原教授が、2016年6月に、ゴロンタロ州を訪問した際、社会共創学部の海外フィールド実習やゴロンタロ大学との共同研究の説明を行った際、ゴロンタロ州知事より、これまでの愛媛大学、ゴロンタロ州およびゴロンタロ州内の地方自治体との地域の課題解決のための協働および連携を発展させるため、ゴロンタロ州とゴロンタロ大学との3者覚書を締結してほしい旨の要請があり、今回の覚書提案に至った。

なお、表1は、過去5年間の愛媛大学のゴロンタロ州およびゴロンタロ大学への派遣・受入人数である。

表1 ゴロンタロ州およびゴロンタロ大学に対する過去5年間の教職員・学生の交流活動人数

年度	派遣（短期）			派遣（長期）	受入（*は長期）		正規大学院受入
	大学院生	学部生	教職員		学生	教職員	
2012年	2人		3人	1人		1人	
2013年	3人	1人	5人	1人		20人	2人（理工）
2014年	4人		2人		1人	4人	1人（理工）
2015年	4人	3人	4人				1人（理工）
2016年	4人	6人	7人		1人(9月)*	11人(11月)	1人（理工）
計	17人	10人	21人	2人	2人	36人	5人

## 2. 協定締結の効果及び展望

インドネシア共和国はめざましい経済発展を遂げているが、地域格差が顕在化している。特にジャワ島とその他の島々との間の経済格差の拡大は深刻で、東部開発はインドネシア政府の最重要課題に位置づけられている。ゴロンタロ州は2000年に独立して以来、スラウェシ島北部における発展地域の中心であり、めざましい発展を遂げつつある。

愛媛大学が行政府であるゴロンタロ州政府及びゴロンタロ大学との学術交流協定を締結する効果及び展望は次のとおりである。

- ・愛媛大学は、インドネシアの地域行政及び大学と連携して、発展途上国の抱える様々な問題（深刻な環境破壊、貧困問題、教育等）の現状を科学的に把握し、その解決案を提案する。そして、協働でその解決策の実施に取り組むという真の発展途上国における問題解決を目指している。この協定の締結によって、ゴロンタロ州内において、これらの協働を発展・深化することが可能となる。

- ・ゴロンタロ州地域は、地理学、地質学、植物学、生態学などの学術面からみても、特色のあるフィールドであり、学術交流協定の締結によって学術研究の一層の進展が期待できる。

- ・愛媛大学とゴロンタロ大学の両大学学生が、ゴロンタロ州が抱える問題に関連する課題を発見・解決する教育プログラムを協働で実施し、愛媛大学学生をグローバル人材として育成することが可能となる。

- ・既に南スラウェシで実施している学術・文化のみならず経済までも包括した地域間連携モ

デル「Local to local」をゴロンタロ地域に展開することにより、地域の経済界や日本の国際支援機関との連携がより一層発展する契機となる。